
ありがとう、大好き

ミルクココア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう、大好き

【Nコード】

N4815B

【作者名】

ミルクココア

【あらすじ】

桜の舞う中、幼い男の子と女の子が手をつないで走っていた。行き先は、図書館。今日は図書館で、二人の大好きな人形劇が行われるのだ。だけどその日に二人のうちの男の子、工藤新一は寝坊してしまったのだ。

桜の舞う中、幼い男の子と女の子が手をつないで走っていた。行き先は、図書館。今日は図書館で、二人の大好きな人形劇が行われるのだ。だけどその日に二人のうちの男の子、工藤新一は寝坊してしまったのだ。新一が起きたのは九時半、人形劇が始まるのは九時三十五分、新一の家から図書館までは大人が歩いて約四十分。小学生にもなっていない子供が走ったって二十分はかかる。おまけに図書館までは、上り坂がたくさんあるから二人はどんなに頑張ったって、図書館まで三十分はかかってしまう。それでも、希望をすてない二人は走り続けた。二十分も走ると女の子、毛利蘭は疲れ始めて歩きだした。新一は、歩き始めた蘭を励ました。

「蘭、頑張れ！もう少しだから！！」

蘭は、頬をふくらまして言った。

「新一が寝坊したせいなんだよ！私、もう走れないよ。」

すると、新一は片足を地面について蘭に“のれ”と言って蘭をおんぶした。蘭は、顔を赤らめて小さな声で

「・・・ありがとう。」

と言った。新一も、顔を赤らめて走った。

— 図書館 —

「着いた〜！！」

二人は声を合わせて言った。だけど、時計をみると二人はがっかりした。蘭は、今にも泣きそうな声で新一に言った。

「新一。人形劇、終わっちゃったよ。」

新一はものすごく申し訳なさそうに蘭に言った。

「ゴメン。俺が寝坊したから……。」

二人が泣きそうな顔をしていると、図書館から館長さんが出てきた。館長さんは、優しく笑うと新一と蘭に問いかけた。

「おや、君たちは、いつも人形劇を見に来てくれる子だね。今日は来てなかった様だが、どうしたんだい？」

その問いかけに、新一は悔しそうに答えた。

「今日、俺が寝坊しちゃったから……。走ってきたんだけど、間に合わなくて。」

すると館長さんは、新一と蘭に微笑みかけて言った。

「じゃあ、いつも見に来てくれてるお礼に、今日は特別に、二人にだけでもう一度人形劇をやってあげよう。」

新一と蘭は、すごく喜んで、大きな声で

「ヤッター!!」

と言った。

館長さんは早速、館内にいる二三人のバイトの人に声をかけて、新一と蘭のために人形劇をやってくれた。すごく楽しい人形劇で、新一と蘭は大喜びした。

人形劇が終わって図書館から出ると、蘭は新一の服の袖を引っ張った。新一が微笑みながら

「どうした？蘭。」

と聞くと、蘭は満点の笑顔で

「今日は、色々ありがとう！新一のせいって言っちゃってごめenne。新一、大好きだよ!!」

と言うと、新一の頬にキスをした。新一は、頬を真っ赤にした。蘭は笑顔で笑っていた。

それから新一は、人形劇の日は二度と寝坊しなかった。

（後書き）

新一と蘭の幼い頃の話です。満足いただけただけでしょうか？
評価の方も、宜しく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4815b/>

ありがとう、大好き

2010年10月10日06時47分発行